

こころの響き

誰かのことじゃない!

自分のこととして捉え、正しい知識や情報に基づき、
コロナを乗り切ろう!



こまめに手(顔)洗い・
うがいをしよう



定期的に
換気をしよう



密集を避けよう



周りの人との
間隔をとろう



咳エチケットを
守ろう

もくじ

- P1 堺市人権教育推進協議会(略称:人権協)とは
- P2 加盟団体の紹介
- P3 今年度の事業紹介
- P4 特集(新型コロナウイルス感染症に関する人権)
- P5.6 第42回わたしからの人権メッセージ 特選作品の紹介
- P7 人権啓発DVD・ビデオソフトの貸出のご案内

堺市人権教育推進協議会では、
皆様に人権啓発の一環として、
人権の大切さを発信するため、
毎年「こころの響き」を発行して
います。

人権協ホームページ



<https://www.jinkenkyo.jp>



編集・発行
(2022年3月発行)

堺市人権教育推進協議会

堺市堺区南瓦町3番1号 堺市人権推進課内
TEL 072-221-9280 FAX 072-228-8070

堺市人権教育推進協議会(略称:人権協)とは

人権協は部落差別をはじめ、一切の差別をなくし、すべての人の人権を守るために、1979年7月に発足した市民組織です。各種市民団体、企業、宗教法人等の多くの方々により構成され、すべての人の人権が尊重される平和で豊かな社会をつくるため、さまざまな人権啓発活動を推進しています。



堺市人権協のシンボルマークは、人と人が手をとりあい、人権を守り、世界の平和を願う姿をあらわしています。



組織図・役員

会長 金丸 尚弘

(堺市人権教育推進協議会企業部会)

副会長 久保 照男

(堺市自治連合協議会)

副会長 山口 典子

(堺市女性団体協議会)

副会長 太田 佳世

(堺市PTA協議会)

副会長 白本 忠史

(堺市保育会)

副会長 木戸 一智

(堺市立校園長会)

副会長 竹田 進一

(部落解放同盟大阪府連合会堺支部)

副会長 吉村 誠治

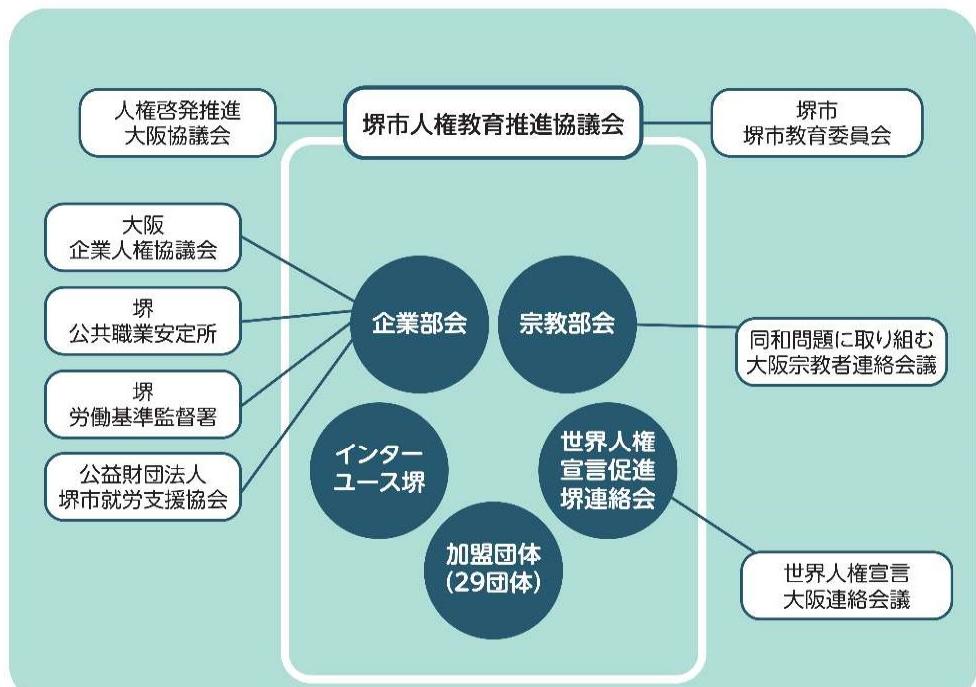
(堺市人権教育推進協議会宗教部会)

会計 小山 敏美

(堺市更生保護女性会)

会計 森内 啓子

(堺人権擁護委員協議会堺市地区委員会)



加盟団体 人権協は29団体に加盟しています。

- ・堺市教育会
- ・堺市在日外国人教育研究会
- ・堺市女性団体協議会
- ・堺市青少年指導員連絡協議会
- ・堺市PTA協議会
- ・特定非営利活動法人さかい民間教育保育施設連盟
- ・堺市立校園長会
- ・堺地区行政相談委員会
- ・一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会
- ・株式会社URコミュニティ西日本支社 泉北住まいセンター
- ・堺市更生保護女性会
- ・堺市自治連合協議会
- ・堺市私立幼稚園連合会
- ・堺市人権教育研究会
- ・堺市保育会
- ・堺市民生委員児童委員連合会
- ・一般社団法人堺市老人クラブ連合会
- ・堺市保護司会連絡協議会
- ・自由同和会大阪府本部堺支部
- ・部落解放同盟大阪府連合会堺支部
- ・堺市こども会育成協議会
- ・堺市社会教育委員会議
- ・特定非営利活動法人堺障害者団体連合会
- ・堺市農業協同組合
- ・一般財団法人堺市母子寡婦福祉会
- ・堺商工会議所
- ・堺人権擁護委員協議会堺市地区委員会
- ・社会福祉法人堺市社会福祉協議会
- ・大阪府立学校長協会 第8地区

加盟団体の紹介

堺市更生保護女性会

更生保護女性会とは、犯罪や非行のない明るい地域社会の実現に寄与することを目的として、地域の犯罪予防活動と犯罪をした人や非行のある少年の更生支援活動を行うボランティア団体です。全国に約1,300地区会があり、約17万人の会員が活躍しています。

堺市更生保護女性会(以下、堺更女)は、昭和40年4月結成、保護司と共に「社会を明るくする運動」をはじめ、更生保護団体として、更生保護施設や少年院・刑務所等を訪問し、犯罪や非行した人の立ち直りを助ける活動を行っており、活動の原点とも言うべき犯罪予防・子育て支援活動など幅広く地域社会にしっかりと根をおろした実践活動を続けています。令和2年には、発足から55年の貴い記念の年を迎えました。現在は、42校区700有余名の会員が堺更女の基礎理念である、人間愛・地域愛の精神をもって、地域の関係機関・団体の皆様と幅広く連携を図りながら慈愛の精神に満ちた、活動を続けています。55周年の貴い節目の年には、「慈愛つないで55年」をテーマに、記念誌「慈愛」の発行、また、各校区に、立て看板を新しく設置しました。立て看板への標語「堺っ子 地域の愛に 笑顔かがやく」の文言の一つひとつは、会員の諸活動に寄せる熱い想いであります。半世紀を越える歴史をいしづえに、活動を楽しむことをモットーに明るい社会に大きな夢を描いて活動を続けています。

主な活動は、7地区に分かれた地域活動と8部会を構成した部会活動となっています。部会活動では、校区代表の理事が一つの部に属して、それぞれの部にふさわしい内容に取り組んでいます。また、地域活動は、各校区において全会員がこぞって参加しています。8部会の内訳は、研修部・地域との連携協働活動推進部・更生保護施設連絡部・愛の募金活動推進部・子育て支援活動推進部・社会貢献活動推進部・茶の湯体験活動推進部・広報部となっています。各部会からは、更生保護のボランティアとして望ましい活動内容と成果を交流し、お互いに大きな喜びとしているところです。また、諸活動を支えているのは、誰に命令や指示を受けることのない、会員一人ひとりのボランティア精神と地域をこよなく愛する熱い心だと思います。そして、温かい人間愛が根底にあるものと考えます。

今、55年の歴史を重ねた堺更女の来し方を振り返り、気持ち新たに時代の要請に応えなければならない思いでいっぱいです。

堺市人権教育推進協議会より、寄稿の機会をいただいたことに感謝して、確かな自覚のもと、活動の一つひとつを見つめることができました。堺のまちが光り輝く日を夢見て先達の足あとをしっかりと踏みしめて、更に力強く更生保護のボランティアとして、会員一同確かな歩みを進めます。

堺人権擁護委員協議会堺市地区委員会

人権擁護委員は、あなたの街の相談パートナー。

人権擁護委員は法務大臣が委嘱した民間の人たちです。この制度は日本国憲法の施行から一年後の1948年に、様々な分野の人たちが、地域の中で人権尊重思想を広め、住民の人権が侵害されないように配慮し、人権を擁護していくことが望ましいという考え方から創設されたものであり、諸外国にも例を見ないものです。

現在、約14,000名の委員が全国の各市町村に、堺市では35名の委員が配置され、松原市、高石市、大阪狭山市の委員と共に堺地区協議会として積極的な活動(相談、救済、啓発)を行っています。

人権擁護委員は、法務局における人権相談所に加え、市役所等の公共施設、社会福祉施設において、特設人権相談所を随時開設して、住民の皆さんからの人権相談に応じています。

また、相談等を通じて、被害者から「人権を侵害された」という申告等があった場合は、法務局職員と協力して、情報の収集、人権侵犯事件の調査・処理に当たったり、当事者の利害や主張を調整したりして、事案の円満な解決を図っています。

さらに、地域住民に人権について関心を持ってもらえるような啓発活動として、小学生や幼稚園児等を対象に、思いやりの大切さを教える「人権教室」の開催や「人権の花運動」の実施、SOSミニレターによる小中学生の人権相談、中学生の人権作文の募集・表彰、企業等における人権講習会の講師等を行っています。

そのほかにも、子どもの人権擁護のための専門冊子等を定期的に発行・配布、放送局の協力を得て、人権擁護の活動(中学生人権作文表彰式等)を紹介するなど、各地域においてアイデアに富んだ啓発活動を行っています。

あなたの街の人権擁護委員について聞きたい事、または悩むことがありましたら相談は無料ですので大阪法務局堺支局にお気軽にお尋ね、またはご相談ください。

今年度の事業紹介

全体研修会(2021年8月24日～9月24日インターネットによる録画配信)

全体研修会では、安田菜津紀さん(フォトジャーナリスト)による講演「共に生きるとは何か～難民の声 家族の歴史から考えた多様性～」と題した講演を、録画配信いたしました。

カンボジアへの渡航や、内戦が続くシリアで活動する中、自身が感じた多様性を中心にお話しいただき、「共に生きる」とは何か、改めて考える機会となりました。



人権を守る市民のつどい

(2021年12月24日～2022年1月23日インターネットによる録画配信)

12月4日から10日までの人権週間に伴い、市民の皆様とともに人権について考え、人権尊重の輪をさらに広げていく機会として、「第42回人権を守る市民のつどい」を開催しました。

第一部の「わたしからの人権メッセージ」表彰式は、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となりましたが、今年度は参加者を限定するなど、感染防止対策を講じながら、12月4日に堺市総合福祉会館で開催しました。

「わたしからの人権メッセージ」の作品募集は、日常生活の中で人権の尊さや人権を守ることの大切さについて考えていただき、より多くの市民の皆様の人権意識の向上を目的に実施しています。応募総数2,550点の中から特選作品を選出し、表彰いたしました。また、4名の代表の方に作品の発表(作品はP.5・6『「第42回わたしからの人権メッセージ」特選作品の紹介』に掲載しています)をしていただきました。幅広い年代からさまざまな人権テーマで書かれたメッセージには、強く心を打たれるものがありました。誰もが自分のこととしてとらえ、自分に何ができるのかを考えて取り組むことが、人権問題の解決への第一歩であると思います。

第二部、又野亜希子さん(元幼稚園教諭、保育士)による「生かされて今、輝く命～車イスから見える世界ってけっこうステキ～」と題した講演を、第一部と合わせて「第42回人権を守る市民のつどい」とし、録画配信いたしました。自身が障がい者となって経験した車イスから見える世界について、またよりよい社会にするためにはどんなことが必要なのかお話しいただき、障がいに対する理解を深めることができました。



新型コロナウイルスで心まで傷つけないで



「誰かのことじゃない」～コロナ禍での差別の実態～

医療従事者やその家族、社会生活の維持に欠かせない業務に携わる人々への差別の事例が全国で多く発生しています。また、感染者や濃厚接触者を過剰に避ける、非難する、といった差別や偏見も生まれています。他にも特定の症状というだけで感染者と決めつけてしまう、あるいは感染者と同じ大学や同じ地域の居住者にも、差別や偏見のまなざしを向ける、といった事例が発生しています。さらには、このような方々に対するインターネット上の不適切な書き込みによる被害が深刻化しています。

感染の事実がない方であっても不当な扱いを受ける事例が発生しており、誰もが当事者の立場になって考える必要があります。

もし自分ならどう思うか…、想像してみましょう！

感染した人やその家族、外国人などを責めないで

感染した人やその家族の名前や住所を特定しようとしてはいけません。

また、差別や偏見、いじめがあってはいけません。

偏見にとらわれず、思いやりのある行動をしましょう。

ワクチン接種本人の判断、差別や嫌がらせはやめましょう

ワクチン接種は本人の意思に基づくものであり、健康状態やメリット・デメリット等様々な事情を考え、自らが判断するものです。

周りの人に接種を強制することや、接種を受けていない人に対し、差別的な態度をとることのないようにしましょう。

不確かな情報に惑わされず、思いやりのある行動を！

誰もが不安の中で生きていることを忘れないで

仕事に不安のある人たち、感染することを恐れている人たち、家族を心配する人たち…。

誰もが何かを不安に思っていることを忘れないでください。

ありがとうの気持ちとエールを送ろう

社会を支えるすべての人たちに感謝と敬意を忘れないようにしましょう。

思いやりの気持ちを持って、お互いに助け合い、コロナ禍を乗り越えましょう。

わたしからの 人権メッセージ

◆ 特選作品の紹介 ◆



障がい者の人権 (小学校五年)

人権とは、人の権利（健康に生きてたくさん学び自由に活動し国から守られ助けながら生きていく権利）であり、全ての人々が人間らしく生きる権利で生まれながらに持っている権利であって、誰にとっても大切なものの、日常の思いやりの気持ちによって守らなければならないものです。

例えば、「女だから」と言ったり、「子どもだから」と言ったりして、その人をばかにしたり、いじめをしたりする人がいます。女も子どももみんな同じ人間だから、これはまちがっている言葉だと思います。相手に気持ちを考えた時に、「子どもだから」「女だから」と言つばかりにしたりするのは良くない事です。

私には、障害のある弟がいます。話す事も立ったりする事も歩く事もできません。だから、お母さん、お父さん、私も手伝って色々な事をやっています。そうする事で、弟もよろこんでくれるし、お母さん、お父さんもよろこんでくれます。でも、私にとってはそれが当たり前な事なのですが、外を歩いていると、車イスに乗っている弟を見る人達は、弟の事をジロジロ見たり、小さ

特選作品集には、応募された2,550点の作品のうち、御本人の許諾を得られた特選作品を掲載しています。

特選作品集ホームページ

[https://www.jinkenkyo.jp/
past-message/](https://www.jinkenkyo.jp/past-message/)



い子が、「あの子大きいのにベビーカー乗っている」「歩けばいいのに」と言つたりしてきますが、どうして車イスに乗っている弟をジロジロ見るのか不思議でした。でも私には当たり前の事で、ふつうの事だと思うから、わからなかつたら、私とお母さんに聞いてくれたらいいのにと思いました。

最近になって思う事は、障害のある人をジロジロ見るけど、困っている時はなぜ声をかけたりしないのか、声をかける事が勇気のいる事で、できない人がいるんだなという事です。お母さんは、弟の車イスを押して電車に乗る時、いつも段が大変そうです。そんな時に、声をかけてくれる人がいると、「いつもありがとうございます」と、何回も言つてます。そして私もお母さんも「いい人やな」「良かった」と笑つています。だから、私も障害のある人が、生活していきやすいように、思いやり、助けてあげる気持ちが当たり前になるように、声をかけていったり、困っている人がいたら、手伝つてあげられたらいいなと思います。



自分の経験をいかして (中学校二年)

僕が人権について深く思うことは「女性の人権・男女差別」についてです。昔は、看護婦という女性しか出来なかった仕事もありますが、今は看護師と、男性も出来るようになった職業が多くあります。その中でも、職場における男女差別です。上司が「君、女だからねえ、こんな仕事まかせられないねえ」と性別を理由にした差別があるのを聞いたことがあります。もちろん、僕はおかしいと考えます。今は、そんなに無いかもしれないけれど、昔はたくさんあったと聞きます。もちろん女性と男性の体の構造は違います。ですが「女性は赤ちゃんを産む体だから」や「料理は女がやるんだ」などは、差別で、料理が好きな男性が居るかもしれないのに決めつけるのはよくないと思いました。

次に「女性の人権」です。自分が体験したことを話します。僕は幼稚園児の時から、小学校の五年生までは、可愛い物が大好きでした。大きなリボンに、ピンクのスカート、流行の物を集めたり、可愛い人形を集めたりして「自分」を楽しんでいました。でも突然気持ち悪くなつて、「自分」を変えました。ピンク色のスカートや、派手な色の服を着るのをやめ、ズボンや暗い服ば

かりを着るようになりました。母はそんな自分に気付かず、スカートを買って来たりしました。

そんな自分も、中学生になり自然に自分のことを「僕」と呼ぶようになり、学校の友達にはよく、「なんで僕なの?」と聞かれたりしました。ほとんどの人は気にせず接してくれるので嬉しいです。

そして、中学二年生、僕は母にも聞かれました。そのときは「自然にこうなった。」と話しました。その日から母は、そのことについて話すことはなくなり、服も「自分で買っておいで」と言われるようになりました。今は小学六年生のときよりも「自分」を出せている気がします。

そして、中二の五月、髪をバッサリ切つて自分の好きな「自分」になれました。ある人からは、「ええ、長いほうが好き」と言われましたが、「似合つて」と言ってくれる人もいて、今の自分を気に入っています。これからも、自分らしく生きていきます。



その一心で命は救える (高等学校一年)

最近いじめで自殺したという記事を目にした。それを読んで私も以前いじめを受けた過去を思い出した。

友達、あるいは親友だった人達からのいじめであった。最初は遊びで済んだが、それは段々とエスカレートし、いじめに変わった。毎日のように逃げられ、透明人間扱い、容姿の誹謗中傷、極めつけには「あなたは私の友達じゃない。」と。何度も泣いたか、何度も死にたいと思ったか。そんな日々が続いた。

これを見て先生や親に言えばいいじゃないかと思った人はいるだろう。しかし、相談すればチクったと言われこれが酷くなると思った。周囲に迷惑をかけたくない、自分が耐えればいい。いじめられている自分が惨めで恥ずかしい。だから相談しなかった。

ある日、母に「学校で何か嫌な事されたの?お母さんには隠さず本当の事を教えて欲しい。」私は、今まであった全てを泣いて打ち明けた。母はそれを聞いて「今まで気づいてあげられなくてごめんね。」と泣きながら言った。

後日、それを部活動顧問に相談した。すると翌日い

じめた加害者達が呼ばれ、話した。加害者内一人は泣いて事実を否定した。顧問はそれをうのみにした。私は絶望した。

それから私は人間不信になり不登校になった。しかし、毎日自殺を考えた私を支え、ここまで回復させてくれた両親には今でも感謝している。

いじめは人権侵害であり犯罪である。加害者には何故罰が与えられないのか疑問に思う。守られるべきは心に傷を負った被害者である。

現在もいじめを受けている人は沢山いる。いじめはこの世から消える事はなくとも防ぐ事はできるだろう。

私が伝えたい事は、頼れる人が一人いるだけで一つの命が救えるという事だ。頼れる人になりたいと思える人がいるだけでこれからの世に勇気と希望を持ち、前を向いて進める人々が増える事を心から強く望む。



ただ、違いを認識する (成人)

私は、目には見えない違いをよく理解するには、誰もが違うということを「ただ強く認識する」ことが大切だと思います。なぜなら、お互いの違いがある程度認めるることはできても、お互いの立場に立って正しく理解しあうのは非常に難しく、不用意な言動から望まない行き違いや軋轢が生じてしまうからです。

私はこの二十数年間、自分自身が在日コリアンであることを隠さずに生きてきました。おそらくそれは、小学校から高校までの民族教育で学んだ歴史や文化と、家で当たり前に食べていた民族料理や使っていた言葉が、在日コリアンとしてのアイデンティティを育んでくれたからだと思います。そのため高校卒業後、日本社会に出てからも常に通名ではなく本名を名乗り、多くの友人や職場の仲間にも自ら在日コリアンであることを明かしています。

そんな私が社会人になってから衝撃を受けた言葉がありました。それは私を含めた多数の人たち全体、あるいは、私個人を指して、何気なく使われている「日本人」という言葉です。

ある時社内で開かれた会議の中で、海外拠点の技術レベルを向上させなければならないという話をされました。その際、上長から「…私たち日本人が現地に赴いてしっかり指導していきましょう。」と言われたのです。またあるときは、会社のとある宴会での出来事でした。その日初めてお話しした方から、「日本で生まれずっと育ってきて、そんなに流暢に日本語が話せるの

ならもう日本人と変わらないな」と言われました。

彼らが私を否定したり、他の何か特別なことを意図して放った言葉ではないことは感覚的に分かりました。しかし、どこか存在を否定されてしまったような気がして、頭の中では色々な自問が繰り返されていたのです。

(もしかして日本人だと本気で思っていたらどうしよう?これまで私がどんな思いで生きてきたかも知らずにどうしてそんなことが言えるのだろう?そもそも他の人々はその人の何を見てあいつは〇〇人だって思うのだろう?)

私にとっては「本名を名乗る」ことそのものが、私が在日コリアンとして生きていることの一つの証であり、誇りでもありました。しかし、実際には、そんなことは周囲にはあまり感知されないので。私の容姿や口調、行動などが、彼らが抱く私への印象として強く残っているのだと思いました。

私たちには、目に見えないアイデンティティや価値観の違いが当然あります。それを正しく理解するのは非常に難しいでしょう。だから、安易な気持ちで近づくのではなく、「誰もが違うということ」ただそれだけを強く認識することができれば、自然とその違いが見えてくるのではないかと私は思います。

堺市人権推進課では、**人権啓発DVD・ビデオソフトを無料で貸出しています。**

貸出作品の一覧は

[堺市人権啓発DVD・ビデオソフトの貸出](#)

検索 



お問い合わせ先 **TEL072-228-7420 FAX072-228-8070**

DVD コロナ禍における人権

約26分

私たち一人ひとりができること ～当事者意識をもって考えるコロナ差別～

「コロナ差別」の特徴と、差別や偏見がなぜ生まれるのか、そしてどのように向き合っていけば良いのかを学べる、ドラマ形式の人権啓発教材。

DVD 情報モラル

約21分

みんなの情報モラルⅢ アニメーションで学ぶ!SNSに潜むリスク

SNSに潜む危険性を学べる映像教材。ドラマで問題点に気づき、分かりやすいまとめの解説で、安心して安全に利用するための知識や心構えを学ぶことができる情報モラル啓発教材。

※その他、みんなの情報モラルVI(アニメーションで学ぶ!情報発信の影響とその責任)等があります。

エスティージー ズ Sustainable Development Goals



SDGsは地球上の「誰一人取り残さない」ことを掲げています。

SDGs(持続可能な開発目標)とは、2015年の国連総会で採択された、2016年から2030年までの15年間に、貧困や不平等・格差、気候変動、資源の枯渇、自然破壊などの様々な問題を解決し、私たちの世界をよりよくすることをめざす、世界共通の17のゴール(目標)です。

人権協では、SDGsのパネルやシールでSDGsの周知を行っています。今後も、堺市や関係団体などと連携・協力して、幅広い人権教育・啓発活動を推進するなど、SDGsの実現に向けた取組を進めています。

堺市は2018年6月に国から「SDGs未来都市」に選定され、SDGsの実現に向け、堺市SDGs未来都市計画を策定し、取組を進めています。

堺市では、女性や子どもをはじめ、すべての市民にとって安全・安心に暮らせる社会の実現をめざし、「セーフシティさかい」の取組を推進しています。

取組の一つである性暴力被害者への支援では、被害者の心身回復のための相談・支援体制の充実や、性犯罪被害に対する社会の偏見をなくし、理解を深めるため、啓発等を行ってきました。

今後も、女性や子どもに対する暴力の根絶に向け、取組を推進していきます。

